

地域と連携した安心・安全な学校づくり

1 目的

・地域人材の活用

稲作体験や歴史学習、環境教育や伝統・文化を学ぶ中で、地域の方々に大切に見守られている意識を高める。

・家庭との連携

授業参観、地域への学校開放、PTA 活動等を通して学校教育に対する理解を深める。

・子どもの安全確保と道德教育の推進

スクールガードや声かけあいさつ運動等を通して地域と連携し、子どもたちの安全確保と豊かな心の育成をはかる。また、3年間の道德教育研究推進校の取り組みを通して、礼儀や伝統、文化を尊重し、郷土を愛する心を育成する。

2 内容

○5年生 稲作体験

毎年、町の農業委員の方々のご協力をいただいて、5年生が田植えや稲刈りに挑戦している。また、収穫したお米を使って親子でおにぎりを作ったり、給食で食べたりしている。稲作の苦労とお米の大切さを実感することができていた。



稲作体験

○土曜参観・親子活動

休日の土曜日を授業日にし、土曜参観を行っている。休日の方が多いということもあり、普段なかなか来られない家族の参観者が多く見受けられ、学校教育に対する理解が広がった。【10月28日実施】



土曜参観

○スクールガード・青少年育成西桂町民会議・道德教育研究推進校の活動

約80名のスクールガードが毎朝、子どもたちの登下校の安全を見守っていただいている。また、青少年育成西桂町民会議の方々が月一回程度、声かけあいさつ運動に協力していただいている。地域で子どもたちを見守り、育てる体制が整っている。

また、令和4年度より3年間道德教育研究推進校の指定校になっており、小中連携を通して郷土を愛する心の育成に努めている。



スクールガード



声かけあいさつ運動



小中連携 八十八大師の前掛け交換

3 成果と課題

- ・子どもたちは、地域の方々や多くの人たちによって見守られていることを実感することができた。
- ・地域の人材活用は、教育課程編成時に備考欄に人材を記入することで、次年度につなげていくことが大切である。
- ・地域の方が子どもたちの顔や家を認識している。また、あいさつを進んでする子が増えてきている。
- ・地域の方々の高齢化もあり、様々な活動を次の世代へと継続していくことが課題と言える。
- ・地域と連携していくためには、学校の窓口が大切である。そこに負担がないようにしていく必要がある。